

第4章 緑視率調査

練馬区みどりの総合計画で示すみどりのネットワークを構成する公園、河川、都市計画道路等について、緑視率を調査した。緑被率が上空から見た平面的な緑被面積を測るのに対して、緑視率は人の視野に占める緑被面積を測るものである。

区内の172地点において、原則1地点につき2方向を撮影し、緑視率を計測した。調査地点数等を表4-1に示す。

表4-1 緑視率調査地点

区分	対象	地点数
公園	1ha以上の都市計画公園・緑地等	37
河川	石神井川および白子川	29
道路	幅員16m以上の都市計画道路等	48
駅	練馬駅、石神井公園駅、大泉学園駅、 上石神井駅、光が丘駅、江古田駅、武蔵関駅	7
樹林地	憩いの森、社寺林	15
農地・樹林地	高松一・二・三丁目農の風景育成地区、 南大泉三・四丁目農の風景育成地区等	12
住宅地	緑地協定、風致地区等	37
合計		185*

* 1地点で複数の区分を兼ねる地点等があるため、実数とは異なる。

1 区分ごとの緑視率

各区分の緑視率の平均を表4-2に示す。公園、河川、都市計画道路、駅の撮影地点のうち、計画・事業中である地点は一時的な数値であることから、調査時点で事業が完了している地点を対象とした。

区分別にみると、樹林地の平均緑視率が最も高く37.1%、都市計画公園・緑地が36.4%、農地・樹林地が33.4%と続いている。

表4-2 緑視率の状況

区分	地点数	平均緑視率(%)
都市計画公園・緑地	19	36.4
河川	21	30.0
都市計画道路	32	27.3
駅	5	13.7
樹林地	15	37.1
農地・樹林地	12	33.4
住宅地	34	19.3
合計	138	27.9

2 区分ごとの緑視率の推移

平成28年度に試験的に調査した地点の緑視率の推移を表4-3に示す。調査時点で事業が完了している地点について比較した。

河川では5%以上増えた地点が多かった。都市計画道路で5%以上減少していた地点の主な要因はせん定であった。駅と住宅地はほとんどの地点で±5%以内の変化となっている。

表4-3 緑視率の推移

	撮影数 (地点数)	平均緑視率(%)		緑視率の増減数		
		平成28年度	令和3年度	5%を超える 増加	±5%以内	5%を超える 減少
都市計画道路 (事業完了路線)	24 (14)	25.6	25.9	4	13	7
河川 (50mm改修完了区間)	13 (7)	23.4	26.7	7	5	1
駅	5 (3)	15.8	14.6	0	5	0
住宅地	20 (10)	22.6	20.8	0	17	3

緑視率の主な増減要因を図4-1から図4-4に掲載する。()内は緑視率を示す。

【増加:樹木の成長】



図4-1 平成28年(23.7%)



図4-2 令和3年(37.8%)

【減少:樹木のせん定】



図4-3 平成28年(55.1%)



図4-4 令和3年(44.3%)

事業中は、一時的に緑視率は減少するが、事業完了後増加することが見込まれる。緑視率の変化を図4-5から図4-8に掲載する。

【減少:道路事業に伴う樹木の伐採】



図4-5 平成28年(38.7%)



図4-6 令和3年(17.1%)

【増加:道路事業による新規植栽】



図4-7 平成28年(4.7%)



図4-8 令和3年(10.8%)